

パートナーシップ制度の利用や法的に結婚をして良かったことはありますか

- ◆ 同性どうしだと結婚するという選択がなかったのであまり考えていなかったが、パートナーシップ制度が導入され申請したことで、お互いパートナーとしての思いが強くなった。
- ◆ 同性どうしで手をつないで歩いていると少し周りの目線が気になっていたが、申請をすることで精神的な安心が得られ、そのようなことも気にならなくなった。
- ◆ アメリカでの生活を経験して同性婚が認められている社会を知ること、日本で同性どうしで結婚することはおかしなことではないと感じることができた。まだ日本では法的に結婚することはできないが、パートナーシップ制度に結婚と同様の意味を感じ、申請を決めた。
- ◆ 戸籍を変更する前から付き合っているパートナーは、戸籍上女性どうしになるので緊急で病院に運ばれた際も「家族ではないので面会できません」と言われたことがあった。現在は戸籍を変更し、法的に結婚をすることができたので、何かあった時も安心感がある。

3 行政に求める取組み

○当事者が自分らしく生き生きと社会で活動するためには、行政の取組みが不可欠です。

性の多様性を当たり前と思える社会にするために取り組んでほしいこと

- ◆ 年齢層の高い方々の理解を促す取り組みを行ってほしい。
たとえば、自治体発行の広報誌やメディアを通じての啓発、区や町単位で小さな集まりを開いて、性的マイノリティ当事者と話す機会を持つなど。
- ◆ 今現在、差別を受けて苦しんでいる人がいるので、自治体レベルで性的マイノリティに関する条例のさらなる充実を図ってほしい。

パートナーシップ宣誓証明制度に望むこと

- ◆ 公立病院では、家族として認めてもらえるという安心感があるが、私立病院では、まだそこまで至っていないところが多い。パートナーシップ制度の存在自体も知られていないので、まずは医療機関だけでも何とか周知をお願いしたい。

まとめ：一人ひとりが自分らしく生きるために

同性愛者の方もパートナーと生涯を共にしたいという思いは異性愛者と同じであるのにも関わらず、同性どうしでは結婚ができないことで不安を感じている方が数多くいます。同じ日本で生活しているのにこのような差別があってはならないと思います。

またトランスジェンダーの方は体の性と性自認が異なることにより、トイレに行くことができないなど、生活していくうえでの困難もあります。

当事者が何に困っているのか、当事者の意見を実際に聞くということが大切です。

知らないことを『知る』ことが、誰ひとり取りこぼさない社会への第一歩になるのではないのでしょうか。

キーワード

- カミングアウトとは …… これまで誰にも言っていなかった自分の秘密を話すこと。
(ここでは主に自分のセクシュアリティについて)
- アウティングとは …… 他人の秘密を本人の許可なく別の人に言うこと。
- (ストレート)アライとは …… 性的マイノリティの当事者ではないが、性的マイノリティの人々の活動に理解を示したり、応援したりする人々のこと。

大阪府主催 令和3年度 性の多様性を考えるセミナー



性的マイノリティ当事者が抱える生きづらさや悩みとは？
～当事者のディスカッションを通じて～

第1部 講義「性的マイノリティが抱える課題について」

講師：暁 project 代表 大久保 暁氏

第2部 当事者によるディスカッション

パネリスト：性的マイノリティ当事者4名

テーマ：「日常の困りごと」

「自分らしく生きるための環境づくり」

「行政に求める取組み」



第1部 講義「性的マイノリティが抱える課題について」

講師：暁project 代表 大久保 暁氏

質問

- ・あなたの性別は？
- ・なぜその性別だと思われたのでしょうか

自分の性別について深く考えたことがある人は少ないのではないのでしょうか。当たり前のように男性として、女性として生きて来られたかもしれませんが、必ずしも体の性別と思う性別が一致する人ばかりではありません。

「女性で生まれてきたら女性だと思えることが普通だ」と決めつけてしまうと、その「普通」に当てはまらない方は「普通じゃないのか」と自信が持てず生きていかないといけなくなります。

⇒今、思い浮かべている自分が認識している性別のことを示す概念を『性自認』と言います。

質問

- ・好きになる性別は？
- ・なぜその性別の人を好きになるのでしょうか

好きになる性別についても深く考えたことはないかもしれませんが。世の中には同性愛者の方や両性愛者の方も多くいらっしゃいます。

「異性を好きになることが当たり前だ」という会話で肩身の狭い思いをされている方も多いでしょう。

⇒今、思い浮かべている恋愛・性愛がどういう対象に向かうのかを示す概念を『性的指向』と言います。

性自認 **S**exual **O**rientation and
性的指向 **G**ender **I**dentify
【**SOGI**】(ソジ) すべての人を含む概念
人は誰もが多様な性の中に生きている

同性カップルの現状

家族として認められないことで、パートナーに何かあり、病院へ運ばれた際に、病状の説明を受けられないことがあります。また、手術の同意書にサインができなかったり、集中治療室内などへの面会ができない場合があります。職場などでも結婚御祝い金などの福利厚生面で不平等なことがあったり、同居したい場合にも不動産業者から「同性カップルと言わないでください」と言われてしまうケースがあります。

この人と一緒に居たい、共に暮らしたいという想いは、異性カップルでも同性カップルでも全く変わりはないにも関わらず、同性カップルということで不利益を被ることがあってはいけません。

子どもへの伝え方、子ども自身の思い

女性どうしのカップル、もしくは父親がトランス男性(女性で生まれ男性と認識している人)の場合、精子提供を受け子どもを授かっている方も多いです。女性どうしの場合、子どもの成長とともに学校にどのように伝えるかなど、悩まれることもあるでしょう。また、ご自身に何かあったときに、パートナーや子どもはどうなるのか不安に思われている方もいらっしゃいます。トランス男性の場合、子どもが成長したら自身のことをしっかり伝えると考えている方もいます。子ども自身の思いはどうでしょう。

両親が女性どうしということを理解している子もおり、血の繋がりが親の性別は関係なく、笑顔で毎日過ごせることが大切、同性婚を認めて国が社会的に承認して欲しいと切実に願っています。

パートナーシップ宣誓証明制度を申請した動機

性的指向は目で見て分からないので、同性愛者の方や両性愛者の方などは「いない」とされてきました。そのため「存在を認めて欲しい」と思い、申請される方もいらっしゃいます。また、医療機関で家族として扱ってもらえるという安心が欲しい、生きていく上でのけじめとしたかったという思いの方もいらっしゃいます。こうした思いは決して特別なものではなく、異性愛者の方も同じことが言えると思います。

ALLYになろう／今日からできること

ALLY(アライ)とは、多様な性に寄り添いたいと考える人のことを指します。人は皆違うことが当たり前という認識を持ったり、「ふつう」ってなんだろうと考えること、また異性愛が前提になっている会話を見直すことから始めてみるというかもしれません。

第2部 当事者によるディスカッション

○性的マイノリティ当事者の方に、「日常の困りごと」、「自分らしく生きるための環境づくり」、「行政に求める取組み」のそれぞれについて、率直な思いを語っていただき、一人ひとりが自分らしく生きることができる社会の実現に向け、これからの私たちの考え方や行動のヒントにつながるということについてまとめました。

○ディスカッションメンバーのプロフィール

- ・すみと：ゲイ、45歳
- ・井上ひとみ：シスジェンダー・レズビアン、42歳
- ・まさ：Xジェンダー、20代
- ・東郷潤：FTMトランスジェンダー、40歳

※ゲイ：同性を好きになる男性
シスジェンダー：出生時の性別と性自認が一致している人
レズビアン：同性を好きになる女性
Xジェンダー：出生時に割り当てられた性別にかかわらず、性自認が男性/女性に二分できない人、男女の枠にとられない性のあり方の人
トランスジェンダー：体の性とは異なる性を自認する人
FTM：出生時に割り当てられた性別は女性で性自認は男性の人、トランス男性ともいう

1 日常の困りごと

○性的マイノリティ当事者やその家族の中には、日常生活において多くの困りごとがあり、生きづらさや悩みごとを抱えています。

日常でどんなことに生きづらさやストレスを感じますか

- ◆異性愛を前提とした日常会話がしんどい。
- ◆職場での恋愛に関する雑談の輪に入ることができず、仕事上で支障が出ることもある。
- ◆トイレや温泉に入るときにどちらの性別の方に入ればいいのか悩むことがある。
- ◆戸籍を変更する前は自分の使いたい性別のトイレを使うことができず、また、変更後も小便器が使えないなどの問題があり、外出先では、トイレに行くことができない。

2 自分らしく生きるための環境づくり

○当事者は、困りごとを周囲の人に分かってもらいたいと思っていますが、うまく伝えられない人もいます。
○このような状況を克服するため、自分のことを理解してもらおうとカミングアウトすることを考えていますが、偏見などから、これまでの関係性が壊れるのではと不安を抱えています。

これまでカミングアウトしたきっかけはどんなことですか

- ◆職場で結婚や子どもをもつことなど、将来の話が出たときに
- ◆お店でパートナーとのペアリングを買うときに
- ◆性別移行をする際に
- ◆自分のセクシュアリティに気づいたときに

最初にカミングアウトした人は誰ですか

- ◆好きになった人に告白する形で伝えた。しっかり話は聞いてくれたが、どのように関わっていいかわからなかったのか、その後連絡が途絶えてしまった。
- ◆姉に伝えた。しかしながら、「そんな人はテレビの中のことだと思っていた」と言われた。その後、母親に伝えると「気づいてあげられなくてごめんね」と言われ、受け入れてくれたが、父親からは「そんなものはすぐに治る、勘違いだ」と言われ、受け入れてもらうのに時間が必要だった。

カミングアウトしたときに言われて嬉しかった言葉は

- ◆「伝えてくれてありがとう。すごくあなたらしいね!いいパートナーを見つけられて良かった。」
- ◆(自分自身の性に対するもやもやを抑え込んでいた時に)「あなたはあなたでいいじゃない!」
- ◆「LGBTQについて全く分かっていなかったけれど、お前を見ていたら、お前はお前で何も変わらない。」

※LGBTQ:レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの各語の頭文字をとって「LGBT」と表現されています。LGBTにQを加えて、LGBTQと表現することもあります。Qは、性的マイノリティを総称する用語としての「クィア」や自分の性のあり方について、まだよく分からない人や、特に決めていない人を表す「クエスチョニング」の頭文字です。